

心臓がドキドキとして…

調子は元に戻ったものの、心臓の拍動とともに、ザアザアと、血が流れるのを、首のあたりで感じたといいます。

土曜日の夕方でもあり、どこにも相談もできず、布団に入り、おとなしくしていたとか。翌日曜日も、ジッとしていたといいます。

月曜日、かかりつけ医に行くと、ホルター心電計を24時間つけ、水曜日に結果を告げられたそうです。それによると、心房細動があるとのこと。

細動が起こると血液が澱み、凝固しかけた血液が脳で詰まると、広範囲の脳梗塞の可能性があります。そこで、抗凝結剤が処方されました。

不安を抱えながら、以前から通っていた太極拳の教室へ行ったときのこと。

軟便状態で、からだがフワフワすると思っていると、頭の中が白くなり、少しの間、動けなくなったそうです。その症状が不安で、また心臓がドキドキと――。

教室から帰ってきて、再び、かかりつけ医へ。「頭の中が白くなって」と、太極拳教室での出来ごとをお話ししても、理解してもらえない様子。

「心臓は大丈夫のようだし、どこが悪いと思いますか？」と、逆に聴かれてしまい、「それが聴きたいから来院したのよ」と、心の中でつぶやいたそうです。

ホッとした一瞬

その後も、症状を訴えると、その度におクスリが増え、「どうしよう」と、実

店頭から
「こんにちば」

第117回

70歳代半ばの1人暮らしの女性が、土曜日の夕方、台所に、心臓あたりがドキドキして、意識が遠のきそうだったとか。

頭の中が白くなる状態が不安を呼んで心臓がドキドキと
症状の内容を理解できれば楽しい毎日に



は相談にみえたのでした。

繊細な方で、疲れると視界にギザギザの現れる閃輝暗点が出るともいいます。

念のため、患者の話をよく聴いてくれる脳神経外科をご紹介します。

翌日、「早速行ってきましたよ」と報告に。頭の中が白くなるのは、めまいの一種ですが、「念のためMRI撮影しましょう」ということに。結果、脳梗塞の痕はなかったものの、2.7mmほどの大きさの動脈瘤が発見されました。

くも膜下出血の原因になる動脈瘤ですが、「この程度の大きさなら、持っている人も多く、症状の起こらない人がほとんどです」と、いわれたそうです。

ただ、「経過をみていきましょう」と。

頭が白くなる原因が理解できたので、ドキドキすることもなくなるでしょう。

「いいアドバイスを受けられて、1人暮らしの私は、安心しました」と。

不安が不安を呼び、本当に病気になってしまうこともよくあるので、1つひとつ、ていねいに不安材料を解決してあげれば、楽しく毎日を送ることができると思います。希望と安心を与えることができ、私もホッとしました。

宮川薬局(宮城県仙台市)代表
薬学博士・薬剤師

みやがわとしじ

宮川季士先生

プロフィール

1976(昭和51)年、東北薬科大学(現・東北医科薬科大学)卒業。'78(同53)年、同大学大学院修士課程修了。'87(同62)年、薬学博士学位。地域に根ざしたおクスリ屋さんとして、多くのファンが。「コロナ禍です。心していきましょう」

